

木村朗子さんによるレポート 2019年8月8日開催

「写真/光をうけとる」トークセッション—もうひとつの写真に触れる

ゲスト 野口里佳さん

第一回は野口里佳さんをゲストにお迎えいたしました。

野口さんが出品されている「reborn art festival」（石巻市）が開幕した翌週、現地での設営を終えて石巻市の鮎川から駆けつけてくださった野口さん。

この25年あまりの作家活動で生まれた数々の作品から、野口さんが「光をうけとる」というトークセッションのタイトルを受けて抜粋されたものをスライドで紹介くださり、あわせて現場でのご様子が目に浮かぶような作品制作の背景もお話いただいた、とても貴重なトークとなりました。

私が野口さんの作品をはじめ拝見したのは、「創造の記録」というシリーズが銀座のガーディアン・ガーデンで展示されていた1996年のことでした。その作品展のことがとても印象に残った私は、以降、野口さんの展示を毎回楽しみにしてまいりました。

今回のトークセッションは私にとって、野口さんの作品展を拝見してきた歴史を振り返る幸せな機会となりました。参加してくださった野口さんファンの方たちのなかには、私と同じ気持ちだった方がいらしたかと存じます。

トークのなかで「宇宙」という言葉が何度か出てきましたので「野口さんが宇宙にひかれるのは、なぜでしょうか？」と質問させていただきました。

野口さんは「わかりません。ただ、いつの頃からか『地球の自転が感じられる人』になりたいと思っていました」とおっしゃいました。

野口さんらしいお言葉だと思いました。

みなさまはどのような人になりたいですか？ また、どのようなことを表現されたいですか？

私からの質問「写真という技法のどのようなところに惹かれていますか？」には「写真は『今』ということと密接に結びついているメディア。『今』しか撮れないその『今』とつきあうことが写真の魅力」とお答えくださいました。

そのお話が「野口さんのやり方」で「今生きていることを肯定していく」ことを率直に表現された「reborn art festival」での最新作とつながって、震災から8年たった石巻で野口さんの最新作をみてきたばかりの私の心を打つのでした。

最後に「野口さんにとってのハイライト！」の「reborn art festival」制作マル秘(?)映像が登場して、みなさまと大笑いして終了しました。

続いて簡単なワークショップの時間へ。

「野口さんの作品を言葉にするとしたら？」というお題に、参加者のみなさまが小さな画用紙に「言葉」を選び記してくださったものをホワイトボードに貼り、共有しました。

「瞬」「惚空」「こどもの心」「アスリート」など素敵な言葉がたくさん並んで、野口さんは「ありがたいです」と、繰り返しおっしゃっていました。

続く交流会ではアルコールやソフトドリンクで喉を潤しながら、みなさまとあたたかな時間を過ごさせていただきました。

「トークセッション」とは名ばかりで、私もまるで観客のひとりのように野口さんのスライドショーを楽しませていただきながら90分が過ぎてしまったことを反省しながらこのレポートを綴っているのですが、最後に野口さんのお話を伺って感じたことを書かせていただきたいと思います。

事前に「はじめて『これが自分の作品だ』と思った作品のことをお話してください」とお願いしてあったのですが、そのお話を伺って、野口さんは「野口さんにしか見えていないものを作品にすること」に、はじめから意識的だったのだとわかりました。

野口さんの「今、目の前にあるもの」をみる力、たちあげる力は野口さんに備わったギフトで、野口さんはそのギフトを最大限生かしながら作品を生み続けていらっしゃるのだと思いました。

「野口さんにしか見えていないもの」を「写真」という技法をとおしてみせていただいた私は、野口さんの作品から「今ここに生きることの豊かさや自由さ」を受け取ってきたのだと思いました。

トークセッションを終えてこのレポートをまとめるにあたって、私の作品のことに思いを巡らせるなかで、あらためて確認したことがありました。

それは、このトークセッションのタイトルである「光をうけとる」という言葉にも通じるのですが、写真を撮るときの私は「被写体をとらえている」というよりも「形ある被写体をとおして無形のひろがりを受けとっている」のではないかということでした。

「自分の作品はすごいと思っていて、自分の作品のために自分がんばらなければならないと思う」とおっしゃっていた野口さん、その誠実なお人柄の野口さんのところに、これからもみたことのない写真がやってくるのだと確信し、今後の野口さんのご活動がますます楽しみになりました。

みなさまにはどんなギフトが備わっていますか？ まだ開いていない「写真」のもうひとつのドアはみなさまの中にあると思っていて、私はそのドアが開くことをとても楽しみにしているひとりです。

来月は若手26歳の写真家・木村和乎さんをお迎えします。

作品もご本人も素敵な木村さん。

次回はもうすこし私の作品も紹介させていただきながら、トークセッションをさせていただきたいと思っています。

ぜひお運びください。

木村朗子